

令和4年度 第2回徳島市総合計画・総合戦略推進委員会 会議録（要旨）

と き 令和4年8月22日（月） 午後2時から午後4時まで
ところ 徳島市役所8階 庁議室
出席者 委員8人、担当部局職員、事務局

1 開会

2 議題

（委員長）

議題に入る前に、「評価の趣旨や協議施策」について、事務局から説明をお願いしたい。

（事務局）

説明概要

- ・「総合計画」は、徳島市政を長期的な視点で総合的かつ計画的に推進していくための本市の最上位計画で、今年度からスタートしている
- ・今後10年間のまちづくりの指針として、「将来像」に「わくわく実感！水都とくしま」を掲げ、その実現に向け、「基本目標」、「政策」、「施策」を定めている。
- ・委員会は、総合計画の進行管理において、PDCAサイクルを適切に運用するため、外部の視点により、本市の取組の評価を行っていただくもの
- ・評価対象は、具体的な取組の方向性や指標を定める「施策」を対象としており、各委員には事前に「各施策」の評価を行っていただいたところ。
- ・2回にわたる会議では、基本目標ごとに、対象となる施策の協議を進めていく
第2回委員会では、基本目標1と基本目標4に属する施策を、
第3回委員会では、基本目標2と基本目標3に属する施策をとりあげる。
- ・評価対象となる「施策」について、「A」順調に進捗、「B」概ね順調に進捗、「C」改善が必要 の3区分で評価いただいている。
- ・協議施策は、事前評価で評価が分かれている施策及びC評価のついた施策。
- ・事前評価結果は資料3のとおり、協議施策は★印が付いたもの。
- ・協議施策ごとに、順番に協議を行い、委員会としての評価を決定していただく。

（委員長）

評価を担当した委員から、所見などをいただくとともに、徳島市の担当部局から補足説明がある場合は、ご説明いただく。その後、質疑応答・意見交換を行って、協議施策について評価を決定したい。一施策ごとにこの流れで、協議を行っていくので、よろしくをお願いしたい。

2 議題（(1) 基本目標1に属する施策の評価について）

（委員長）

議題(1)に入る前に、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

（事務局）

説明概要

- ・基本目標1の概要説明
- ・基本目標1の協議施策について報告
 - 施策1 子ども・子育て支援の充実
 - 施策2 学校教育の充実
 - 施策3 教育環境の向上
 - 施策5 健康づくりの推進

施策1 子ども・子育て支援の充実

（委員）

B評価としたが、成果指標が1～3までは順調に推移してはいるものの、市民満足度指標が令和2年度から顕著に下がっているので無視できない。コロナの影響ではあると思うが今後それをどう捉えて施策を推進していくのかというところである。

（委員）

この施策において、市全体の大きな転換点となったのは成果指標2「保育所等利用待機児童数」が令和4年度に0になり解消したというのが大きな進捗ではないかと思う。保育士確保を中心に、効果的・効率的な施設配置や入所者支援を行った結果として待機児童数を0にできたというのは評価できる。関係法令等のもと、保育の仕事に携われば、子どもを預かる施設の規制のハードルが高いことはわかる。子どもの年齢ごとの保育士数や面積など、ハード・ソフト両面において基準を満足していないと運営ができないのが大原則である。一番重要な指標が改善されており、今後も継続していただきたいところである。

一方、満足度については、コロナの影響もあるだろうが、例えば通勤途中に子どもを預けたなどのさらにきめ細かな対応への期待に応えられていないと推測される。保育分野は子どもに対してのものだけでなく、保護者から選ばれる時代にきている。そういった時代だからこそきめ細かい対応ができると満足度があがってくると思われるが、他の委員のご意見をお聞きしたい。

（委員）

コロナの影響が満足度に出ていると感じるところである。全体に関しては目標を達成できているのではないか。

(委員長)

成果指標の数値は、おおむね良好という評価である。今後はより高次の満足度を得るための取組や工夫に期待して、この施策はB評価にまとめたい。ご意見のある方はいらっしゃるか。

「意見なし」

施策5 子ども・子育て支援の充実

(委員)

成果指標4「糖尿病有病者及び予備群の割合」の分母分子を教えてください。

(担当部局)

詳しい数値は手元に資料がないが、本市の国民健康保険加入者特定健診の受診者数を分母とし、該当者を分子としている。

(委員)

新型コロナウイルスの影響が大きくなって以降、イメージとしてはアウトドアやウォーキングなどを取り入れて健康的な生活をする人が増えたように思う。そう考えると、評価シートの数値とは整合せず、逆行していると感じたためC評価とした。この関係性については、どのように考えているかお聞きしたい。

(担当部局)

委員のご指摘のとおり、一部では健康的な生活をする人が増えているのも事実であるが、全体的に見ると、市民の多くは日常生活の行動が制限されてしまったことで運動量が減ってしまい、またストレスなどで間食の機会が増えてしまったことで、数値としては悪化しているものと考えている。

(委員)

糖尿病やメタボリックシンドロームが増えているのは、オンライン等で移動距離が減り運動量も減ってしまったことも影響していると思う。徳島では歩かない人が多いので、コロナの影響でもっと歩かなくなってしまったのではないかと懸念しているところである。

(委員)

多くの方は被用者保険に入っているので、徳島市が把握できる国民健康保険の健康診断だけでなく、被用者保険を含めた統計をとらないと判断がむずかしいところである。行政評価の指標の考え方として他の委員はどのようにお考えか。

(委員)

ご指摘のとおり、難しい部分もあると思う。

(委員)

データを取得するために手間や費用が多くかかってしまい、評価の正確性が下がってしまうことがあり、統計上や政策評価をする上で難しい問題でもある。国民健康保険は自営業や農業に従事されている人が多く、大多数を占める被用者保険の加入者とは明らかに生活のスタイルが違うので、それを踏まえて評価すると結果が変わってくる可能性もある。

委員のご指摘のとおり、成果指標4「糖尿病有病者及び予備群の割合」及び5「メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合」は、若干の集合バイアスがあり、市全体として見るには分母の取り方が不正確である。今後、徳島市が市民の健康づくりに対して行った事業が成果につながっていることがわかる指標を探すことが必要である。

(委員長)

成果指標の件については、今後、研究や検討をいただき見直しを含めてさらに工夫していただきたい。他の成果指標では、市民満足度指標を含めて順調に進捗しているものもあることから、この施策はB評価にまとめたい。ご意見のある方はいらっしゃるか。

「意見なし」

施策2 学校教育の充実

(委員)

成果指標については目標値に対して順調に推移している。資料4でも意見を述べたが、重点事業④「小中学校情報教育推進事業」の教員のICT活用指導力の達成率について詳しくご説明をお願いしたい。

(担当部局)

文部科学省が実施している調査であり、「教材研究や校務に活用する能力」「授業中にICTを活用して指導する能力」「児童生徒にICT活用を指導する能力」「情報モラル等を指導する能力」の4つの項目の内容について、各校の教員が自己評価を行った結果を集計したものとなっている。

(委員)

客観的に第三者が行った評価や研修の成績等ではなく、自己評価結果の数値であることは理解した。

(委員)

委員のご指摘のように、自己評価は抽象的であるという意見がある。一方、教育現場ではそれをもとに評価しなければいけないという側面もある。例えば、大学では学生に具体的な評価基準となる目標を立てさせ、それがレポートで示されていれば単位を与えることがある。今まで抽象的な物差しで評価していたものを、現在の評価では数値化して良し悪しを判断しようとしており、評価する側の教員としては大変な現実もある。このような評価の手法は増えているように思うが、他の委員のご意見をお聞きしたい。

(委員)

ループリックなどもあるが、教員の評価と学生ができているつもりで書いていることが合致しておらず、なかなか定量評価が難しいところ。

(委員)

このような問題もあり、どのような指標が適切であるかは今後の検討課題としたいところである。

今後、デジタル田園都市国家構想が地方自治の世界に持ち込まれようとしており、ICTやDXも進んでいくだろう。しかし、高い専門性をもって仕事をしてきたところ、すぐにデジタル化されないのが現実であるため、考え方を考える時間も必要となり、人材不足も解消していないといけないところである。A評価とされている委員の方にもご意見をお聞きしたい。

(委員)

今後の期待を込めた部分もあるが、前向きに努力されている印象からA評価とした。

(委員長)

市立高校という施設や先生方を組織として抱えている市の教育委員会の役割は大変大きいと感じる。今後、難しい課題にチャレンジしていただく期待も込めて、この施策はA評価にまとめたい。ご意見のある方はいらっしゃるか。

「意見なし」

施策3 教育環境の向上

(委員)

成果指標3「小中学校の大型提示装置の整備率」について分母分子を教えてください。

(担当部局)

各小中学校の普通教室を分母として、大型提示装置設置済みの普通教室を分子としている。

(委員)

教室にもよると思うが、どのくらいの大きさのディスプレイ装置なのか。

(担当部局)

例えば、小学校であれば60インチ型もしくは65インチ型のサイズの物となっている。

(委員)

大学では吊り下げ式のプロジェクターが主流になっている。一部の講義棟に非常に大きなディスプレイ装置が備わっているが主流ではない。

(委員)

吊り下げ式のプロジェクターもあるが、電子黒板などもあり様々である。

(委員)

実際に小学校では、大型の電子黒板を導入しており、推進されるべきであろう。また、教員を養成する現場においても電子黒板を使用して模擬授業のトレーニングなどを行っている。

(委員)

成果指標3「小・中学校の大型提示装置の整備率」は、令和12年度の目標に向けて順調に進捗している。

一方、トイレの洋式化率について、評価を担当した委員にご意見をお聞きしたい。

(委員)

全体的に当初の計画が低かったのではないかと。児童生徒の自宅のトイレは、ほとんどが洋式化されていると考えられ、もう少し早く整備することはできないか。

(委員)

委員の指摘は、市の幼稚園及び小・中学校の洋式化の計画と比較して、家庭の洋式化率のスピードの方が速いために、双方のギャップが大きくなっているため、社会の現状にあわせてスピードアップすべきではないかということである。

行政は予算を毎年確保して計画的に推進するのが基本であるが、社会の情勢がそれを超えて進展している場合には、それを踏まえてスピードアップしてほしいところである。家庭のトイレの洋式化の進捗度にも注視しながら、市全体の洋式化率に遅れないように、学校の設備も予算を確保していく必要がある。

行政が行うサービスの提供は幅広く、道路や上下水道などのユニバーサルサービスの提供から、社会的なサービスの提供、文化の向上に資するサービスの提供と様々である。委員のご指摘のように、トイレは生活の場で使用されるものであり、文化的な側面が強い。したがって、当初計画した予算に応じて整備をしていくユニバーサルサービスの提供よりも、家庭での生活

を踏まえた上で、文化の進捗に合わせた整備を行っていくべきである。

(委員)

市内の認定こども園や保育所のトイレの状況との関係も気になるところである。

(委員)

本日出席されている担当課ではないので、市の施設を含めて全体として考えていただきたい。

(委員)

トイレの洋式化も重要ではあるが、身体障害者対策のトイレも取り入れていただきたい。

(委員)

幼稚園や小・中学校での教育環境の向上として難しい部分もあるだろうが、ユニバーサルデザインなどの様々な価値観を計画に取り込んでいくことで有意義なものになるだろう。

(委員長)

政策を練るためには、日本の文化や考え方の変化に注視しながら行政計画を立て、予算要求をしていくことが非常に重要である。市の幼稚園や小・中学校はもちろんのこと、市の公共施設や認定こども園などにも一定の配慮をもった計画が必要である。今後の予算確保と行政計画の充実に向けてご尽力いただくということで、この施策はB評価にまとめたい。ご意見のある方はいらっしゃるか。

「意見なし」

2 議題（(2) 基本目標4に属する施策の評価について）

(委員長)

議題(2)に入る前に、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

(事務局)

説明概要

- ・基本目標4の概要説明
- ・基本目標4の協議施策について報告
 - 施策31 働く環境づくりの推進
 - 施策34 観光・交流の促進

施策31 働く環境づくりの推進

(委員)

コロナ禍によってテレワークなどの多様な働き方が進み、若者や女性の働く意欲が向上していることからA評価とした。しかし、働く女性のための取組として重要と思われる病児・病後児預かりサポートの再開の目途が立っておらず、創業促進事業についてもセミナーの中止や縮小という状況から考えて、A評価とするには若干厳しいと今は感じている。

(委員)

ファミリー・サポート・センター事業と病児・病後児預かりサポートとの関係性について詳しく教えてほしい。

(担当部局)

ファミリー・サポート・センター事業とは、育児の応援を依頼したい人である依頼会員が、育児を応援できる人である提供会員に対して、保育所や幼稚園の送り迎えやその後の預かりをはじめ、様々な子育ての応援が受けられる事業である。

一方、病児・病後児預かりサポートとは、病気中の子どもや病気の回復期にある子どもを提供会員が預かったり、子どもの急な発熱時などに保護者に代わって病児保育施設などへのつなぎ役となるものである。このサポートについては、令和2年3月より新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により休止中である。事業の委託先である公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワークへは、近隣の6市町村を含めてサポート再開の要望が多数あるものの、提供会員に高齢者がいることやコロナの感染状況と相まって、まだ再開の目途が立っていない。

(委員)

解決方法が見つからず仕方がない部分もあるが、他の方法や工夫をして実施を検討してほしい。

(委員)

委員のご指摘のように、預かる場所が全くなかったわけではないが、保護者が対応しなければならないという状況に陥っているため、やはりケアしていただきたいというご意見である。

ファミリー・サポート・センター事業の提供会員の多くは、ボランティア精神と善意で会員になっている現状もあるだろう。積極的に提供会員となっていたいただいた方の気持ちを削ぐことなく運営していかないといけない面もあり難しいところである。他の委員のご意見をお聞きしたい。

(委員)

成果指標の中には改善している指標もみられるが、成果指標1「企業等の誘致件数」は進捗具合から見て令和5年度の目標には達しないだろう。また、成果指標2「雇用拡大人数（雇用

奨励金運用人数)」も1年ごとの増加幅を見れば減少している。さらに、成果指標3「徳島市働き方改革制度整備企業数」についても関連法が施行されていることで、行政の関与がなくても各々の企業で取組が進んでいる側面もある。これらのことから、企業誘致の方向に行政の力を発揮してほしいという思いを込めてB評価とした。

(委員)

デジタル田園都市国家構想のもとでは、企業誘致の考え方を変えなければいけない。自治体がDXを推進する場合には、コンピュータに精通する人材が自治体の中にも外にも必要であるが、自治体の外の人材はリモートワークで仕事ができ、徳島に来る必要がない状況にある。

まち・ひと・しごと創生総合戦略では、企業の本社機能の移転を企業誘致により呼び込み、そこで働く人を増やすことで人口増加を狙っていたが、リモートワークが普及したことで考え方を変えなければいけない状況になりつつあるのではないか。

しかしながら、委員のご指摘のように、計画の目標値の達成率が良くないのは、徳島市内に本社機能を移転できる環境が整っていないと評価せざるを得ない。地方で働く環境づくりはまだ道半ばであり、DXが進んだとしてもやるべきことはあるのだろう。

大学の先生方にお聞きしたいが、学生は都会志向が強いのか。

(委員)

学生によりまちまちという印象である。都会志向、地元志向、海外志向もある。

(委員)

地元の進学者が多いので、地元から来ている生徒は地方志向が強い。根拠があるわけではないが、都会志向の生徒は大学の進学の時点を都会を選択しているというケースが多いように思う。

(委員)

地元志向が非常に強い。子どもの数が少ないので親が都会に出したがらないのではないだろうか。

(委員)

教員や保育士を目指している生徒も地元志向が強い。

(委員)

本学は地元からの進学が7割少しを超えるくらいあるので地元志向が強い。

(委員長)

大学を選ぶ段階で、都会志向の学生は親と一緒にあって都会を目指している。大学側から見ると、地元志向の学生はしっかり勉強している。自分の生まれ育った地元に貢献したいと公務

員を目指す生徒もたくさんいる。市全体としても、新しい学卒者を受け入れられる産業の振興や企業の誘致は重要である。その目標を達成していくことで、総合戦略で目指している人口の還流を起こし、経済を振興していかなければならない。今後の期待を込めて、この施策はB評価にまとめたい。ご意見のある方はいらっしゃるか。

「意見なし」

施策34 観光・交流の促進

(委員)

重点事業⑤「水都とくしま魅力向上事業」について、地域ブランド調査の魅力度における順位を目標値としているが、実際に行った取組の効果が順位にどの程度反映されたのかがわかりにくい。資料5でご回答いただいているように、観光WebサイトのページビューやInstagramのフォロワー数もあると思うが、地域内か地域外かを見分けることは可能なのか。

(担当部局)

Instagramのフォロワーについては、徳島市内が50%ほどであり、県外が30%程度、残りは県内の他の市町村という構成である。また男女比については、男性48%ほどに対して、女性が52%ほどという状況である。

(委員)

この重点事業の目標である「地域ブランド調査」の魅力度における順位はアウトカム指標ではなく、インパクト指標ではないだろうか。魅力度が上がるための要素は宣伝以外にも様々である。委員のご指摘のように、事業がどのように成果につながったかを評価するためには、市外、県外の方へどれだけ魅力を伝えられたかについて指標を設定しなければいけない。

(委員)

Instagramのフォロワー数などで効果的に事業成果を評価できるよう研究してほしい。

(委員)

Instagramのフォローはどのようなときにするのか。興味があったり、共感できる投稿があったり、気になる情報を継続的に発信しているからフォローすると思うがどうか。

(委員)

フォローをすること自体は、心理的にハードルが高いものではなく、インフルエンサーが紹介している内容や配信されている興味のあるコンテンツなど、目に届く機会が多いというのが重要である。

(委員)

このように分析すると、今の指標よりもフォロワー数などを指標にして、コンテンツが整理されて伝わっているという成果や魅力あるコンテンツに近づいているといった事業成果を評価できる形にするのがよい。事務局とも相談の上で検討をお願いしたい。他の委員の方のご意見をお聞きしたい。

(委員)

観光客の激減という状況が数値に表れているためC評価とせざるを得なかった。今しかできないこともある中でコンテンツの造成等に取り組んでいただいているが、実績値を見ていると厳しいと言わざるを得ない。

(委員)

確かに数値だけでみるとC評価であるが、コロナの影響が大きくてなかなか前に進めていくことが難しい中で、できることを一つずつ進めている印象はある。しかしながら、コロナがはじまってある程度の時間が経過しており、取組方法や工夫を行っていかねばならないことを考慮するとC評価とするのも致し方ない。

(委員長)

観光は人の動きと密接に関わっており、国の動向で数値も影響を受ける。今後は国も強い制限はしないだろうが、現時点で観光・交流をどう促進していくのかは方向性が見えていない。

デジタル田園都市国家構想で市民の幸福度という言い方をしているが、幸福は人間の心の中にあり感じ方が違うものである。憲法は個人が幸福を追求する権利を保障すると明記しているだけであり、国はその中身についても幸福そのものについても保障していない。そういう中で観光というコンテンツは、多くの方にとって仕事だけではなく重要なものである。

徳島市では、今夏開催された阿波おどりをやりきった。様々なご意見はあるものの、徳島らしい姿であり、徳島の典型的な姿であることは間違いないところである。批判はあるが、開催できるように尽力したのは前向きに評価されるべきである。

今後はより一層、行政として情報発信と公共施設の安全安心を高めるように取組を充実させていただきたい。今後の指標の検討を含めて、この施策はC評価にまとめたい。ご意見のある方はいらっしゃるか。

「意見なし」

(委員長)

本日の協議施策は全て終了したので、事務局にお返しする。

3 閉会